

ふるさと文化館ニュース

NEWSLETTER OF NERIMA SHAKUJIKOEN FURUSATO MUSEUM



©Kazuhiro Shiraiishi

①



©Kazuhiro Shiraiishi

②



③



④



⑤

⑥



©Kazuhiro Shiraiishi

⑦

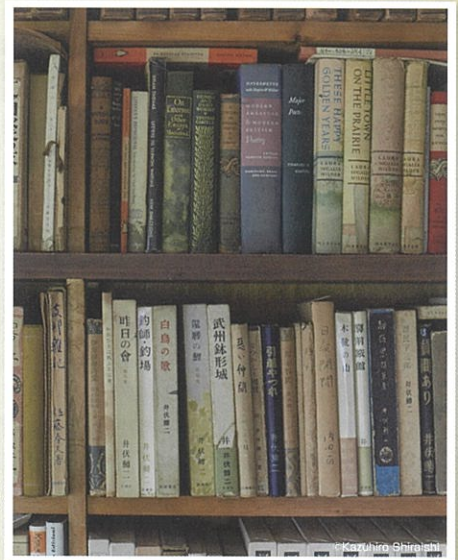
— 生誕100年記念 —
「作家・庄野潤三展
日常という特別」

特別展

令和4年1月15日(土)
▶ 3月13日(日)



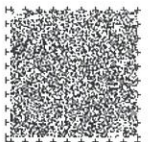
⑧



⑨

- ① 家族と遊んだ百人一首 平成30年(撮影・白石和弘)
- ② 庄野潤三宅の庭 平成30年(撮影・白石和弘)
- ③ 石神井の自宅の庭にて子どもたちと 昭和31年
(撮影:仁田三夫 県立神奈川近代文学館蔵)
- ④ 庄野潤三の本棚(部分) 平成30年(撮影・白石和弘)
- ⑤ 庄野潤三が愛用した鉛筆 平成30年(撮影・白石和弘)
- ⑥ 石神井の牧場にて兄妹らと 昭和29年(県立神奈川近代文学館蔵)
- ⑦ ガンビア近くの農家にて 昭和33年(県立神奈川近代文学館蔵)
- ⑧ 石神井の自宅前にて家族と 昭和29年(県立神奈川近代文学館蔵)

新型コロナウイルスの感染状況により、本誌掲載イベントのほか当館が主催するイベント等が中止や変更となる場合がございます。イベント等の実施につきましては、当館までお問合せいただくか、当館ホームページにてご確認くださいませますようお願いいたします(随時更新いたします)。



特別展

—生誕100年記念—「作家・庄野潤三展 日常という特別」

● 会 期:令和4年1月15日(土)～3月13日(日)

「プールサイド小景」初版
(みすず書房1955年 当館蔵)

● 会 場:石神井公園ふるさと文化館2階 企画展示室

● 観覧料:一般 300(200)円、高校生・大学生 200(100)円、
65～74歳の方 150円、中学生以下と75歳以上の方 無料

*身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は一般150円/
高校生・大学生100円*練馬区立美術館との相互割引あり。*()内は20名以上の団体料金

● 特別協力:県立神奈川近代文学館／公益財団法人神奈川文学振興会



令和3年に生誕100年を迎えた作家・庄野潤三(1921～2009年)は、昭和28(1953)年から昭和36(1961)年までの約8年間、石神井公園にほど近い練馬区南田中町(現・南田中)に暮らしていました。

練馬区に住んでいた昭和30(1955)年に「プールサイド小景」で第32回芥川賞を受賞、同年8月に勤めていた朝日放送を退社し、作家活動に専念することになりました。昭和35(1960)年には「静物」で第7回新潮社文学賞も受賞しています。「プールサイド小景」と同年に新聞連載された「ザボンの花」には、当時の麦畑の広がる石神井の地域の豊かな風景と暮らしが描かれました。

庄野の作品は日常生活を丁寧に描いたものが多く、「すべての文学は人間記録だという考えが根本にある」という創作姿勢は晩年まで貫かれました。登場人物の日常生活—家族との会話や些細な物事への考え、感情などを丹念に描いた文章は、多くの読者の心を惹きつけました。

ヒューマン・ドキュメント

本展では練馬区居住期を中心に、原稿や書簡、書籍、写真資料などから庄野潤三の作品をご紹介します。

関連イベント

A 講演会「父の思い出・石神井時代」

講 師 今村 夏子(庄野潤三長女)
日 時 2月12日(土) 14:00～15:00
定 員 72名(抽選)
参加費 無料
会 場 石神井公園ふるさと文化館
1階 多目的会議室
申 込 事前申込制

B 講演会「庄野家の人たち」

講 師 島田 潤一郎(夏葉社代表取締役)
日 時 2月27日(日) 14:00～14:45
定 員 72名(抽選)
参加費 無料
会 場 石神井公園ふるさと文化館
1階 多目的会議室
申 込 事前申込制



庄野潤三肖像
(撮影:野上透 個人蔵)

*このほか、展示解説会などを開催します。
詳しくは、本展チラシ、当館ホームページをご覧ください。

練馬区ゆかりの作家同士の親交 庄野潤三と檀一雄

当館に収蔵されている資料で、昭和50(1975)年に庄野潤三が檀一雄に宛てた手紙があります。庄野と同じく練馬区ゆかりの作家である檀一雄は石神井公園の近くに住み、南田中町にあった庄野家の近所でした。庄野がこの手紙を書いた頃、庄野はすでに転居していましたが、住まいが離れても檀と親交があったことがわかります。

庄野が南田中町にいた頃、ある雑誌(*1)に檀との思い出を書いています。庄野が上京して間もないころ、夜遅くにウイスキーを提げて庄野家を訪ねてきた檀が、単刀直入に「あなた、会社をお辞めなさい」と言ったが、庄野の原稿料を聞いてあっさり助言を撤回した、というエピソードです。庄野は「僕にとって、原稿料というものは、気まぐれな友人のようなもので、いつでも手近なところにいるようで、実際に家にやつて来る回数はそう多くはないのである。」と続けて書いています。しかし、この文章が発表された5ヶ月後には会社を辞め、作家としての地歩を固めていきました。別の文章(*2)では檀の電話の声について、「私はその声を聞いて、ああいう風に自分の名前を云うのはいいなと思ったことが何度もある。」「あの声には何に対しても臆するところのない、悪びれない天真のひびきがある。」と書いており、檀の元気な明るさに惹かれていたことがわかります。

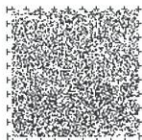
さて、先の庄野から檀への手紙の内容は、檀の著作『火宅の人』についての感想が書かれています。野兎が庭に迷い込んで、あちこちを嗅ぎまわった挙句、一目散に裏山へ去っていくという場面の文章について、「何かしんとした、さびしい夜の空気といふものを覚えました。」と書いています。この場面は、作中の主人公がよく訪れた森の中のホテルの様子が書かれたほんの一節ですが、こういった描写からさびしい夜の空気を感じ取るところには、ささやかな日常生活を大事にし、庭の樹々や花、鳥たちの様子を丹念に描いた、庄野ならではの感性が見受けられます。

この手紙は、特別展—生誕100年記念—「作家・庄野潤三展 日常という特別」でご覧いただけます。

(*1)「News mirror 新聞月鑑」7(74)新聞月鑑社 1995年3月

(*2)「新選現代日本文学全集」月報 1960年12月

(学芸員:川崎恭子)



第9回ねりま手工芸公募展 表彰作品

令和3年8月29日(日)～9月4日(土)、当館企画展示室において、第9回ねりま手工芸公募展が開催され、応募のあった様々なジャンルの作品の中から41点が展示されました。各賞の受賞者をご紹介します。

区長賞：石川 たづ子 作「スロベニアの思い出」
 石神井公園ふるさと文化館館長賞：天沼 聖恵 作「軍手」
 練馬区手工芸作家連盟会長賞：橋本 欣郎 作「独立自尊」
 練馬区伝統工芸会会長賞：吉田 京子 作「炉縁 銘『鞆』」
 優秀賞：赤羽 伸子 作「蓮華袋の花ごよみ」
 武田 良幸 作「欧州の馬車道」
 松原 淳子 作「炎天」
 吉見 奈緒子 作「静寂・湧出・飛翔」

次回の手工芸公募展は、令和4年6月頃に作品を募集し、9月頃に展覧会を開催する予定です。ぜひご出品ください。

主催：ねりま手工芸公募展実行委員会

(練馬区手工芸作家連盟・練馬区伝統工芸会・練馬区・練馬区文化振興協会)



区長賞：石川 たづ子作「スロベニアの思い出」

サポーター コラム

ふるさと文化館では、案内やイベントのお手伝いをするサポーター(ボランティア)が活動しています。今回は、サポーターの江間邦子さんのコラムをご紹介します。

コロナ禍による緊急事態宣言の中、古民家に親子4人のご家族の来訪があり、小学6年生の少女と小学3年生の少年でした。少女は小3の時インフルエンザになり、ふるさと文化館を見学出来ず昨年は社会科見学が中止。それでご家族で見学に来訪とのこと。その少年はとても丁寧な言葉遣いと姿勢で、「これはなんですか？」と数回質問をしてくれました。帰り際、大勢の来館者がいる中、振り返ると私の後ろに直立して「教えていただきありがとうございました！」と丁寧にあいさつしてくれた少年。小さなボランティアでも多少お役に立てた事と少年の言葉が私の心に伝わり嬉しくなりました。これからも頑張りたいです。

古民家で季節を味わってみませんか？

石神井公園ふるさと文化館に隣接する、区指定文化財「旧内田家住宅」(古民家)では、季節に合わせた展示を行っています。古民家で季節の風情を感じてみてください。



正月飾り
12月28日(火)～令和4年1月7日(金)



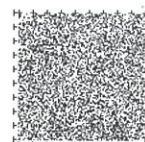
ひな飾り
令和4年2月19日(土)～3月3日(木)



まゆ玉飾り
令和4年1月8日(土)～15日(土)



雪が降ったら
こんな古民家の姿も
見られるかも…!



催し物のご案内(12月～3月)

石神井公園ふるさと文化館展覧会

企画展「思い出のとしまえん」 開催中

11月7日(日)まで

特別展「一生誕100年記念— 作家・庄野潤三展 日常という特別」

1月15日(土)～3月13日(日)

※展覧会および関連イベントの詳細につきましては、
2ページをご覧ください。

季節展示事業

歳時にあわせた年中行事を再現し、季節ごとに飾りつけなどを行います。

正月飾り 12月28日(火)～1月7日(金)

まゆ玉飾り 1月8日(土)～1月15日(土)

ひな飾り 2月19日(土)～3月3日(木)

ふるさと文化講座

歴史・民俗・自然など様々なテーマの講座を行います。

渋沢栄一が見た、1867年パリ万国博覧会

11月23日(火・祝) 14時～15時30分

講師: 関根 仁(渋沢史料館 学芸員)

定員: 72名(抽選) 参加費: 無料 申込: 事前申込制

申し込み方法: 往復はがきまたはメールにて①イベント名②氏名(ふりがな・2名まで)③住所④電話番号を記入の上、石神井公園ふるさと文化館(石神井町5-12-16 または、
event-furusato@neribun.or.jp)へ。
11月9日(火)必着。

分室

五味康祐のオーディオで聴くレコードコンサート

12月25日(土)、1月22日(土)、3月26日(土)

※2月はお休み

①: 13時30分～15時 ②: 15時30分～17時

対象: 中学生以上 定員: 各回16名

参加費: 各回300円～500円(解説員により異なる)

申込: 事前申込制

区内大学との連携コンサート

武蔵野音楽大学サロンコンサート 1月15日(土)

日本大学芸術学部サロンコンサート 1月30日(日)

いずれも14時～15時

会場: 石神井松の風文化公園管理棟2階 多目的室

申込: 事前申込制

その他のイベント

絵本とあそぶ会

2月6日(日) 14時～14時45分

読み手: 練馬区立南田中図書館司書 申込: 事前申込制

石神井中学校演劇部による絵本とおはなしの会

3月12日(土) 14時～14時45分

出演: 石神井中学校演劇部 申込: 事前申込制

※各催しの開催時期・内容は変更になることがあります。また、募集時期・申込方法については、ねりま区報や当館ホームページ等でお知らせします。

利用のご案内(令和3年11月現在)

開館時間 9時～18時(会議室の利用は、9時～21時30分) **入館無料** ※特別展は有料

休館日 月曜日(月曜日が祝休日のときは、その翌平日)、年末年始(12月29日～1月3日)、臨時休館日

	石神井公園ふるさと文化館	徒歩10分	分室
最寄駅	<ul style="list-style-type: none"> 西武池袋線「石神井公園駅」下車 徒歩15分 西武新宿線「上井草駅」下車 徒歩25分 		<ul style="list-style-type: none"> 西武池袋線「石神井公園駅」下車 徒歩15分
バス	<ul style="list-style-type: none"> 西武バス 「JA東京あおば」下車 徒歩5分 荻14(石神井公園駅南口～上井草駅～荻窪駅) みどりバス「JA東京あおば」下車 徒歩5分 関町ルート(関町福祉園～武蔵関駅南口～上石神井駅～練馬高野台駅～順天堂練馬病院) 西武バス「三宝寺池」下車 徒歩2分 荻15(長久保～大泉学園駅南口～上井草駅～荻窪駅～阿佐ヶ谷駅) 		<ul style="list-style-type: none"> 西武バス 「石神井郵便局」下車 徒歩1分 吉60(成増町～石神井公園駅北口～上石神井駅～吉祥寺駅) 荻15(長久保～大泉学園駅南口～上井草駅～荻窪駅～阿佐ヶ谷駅)



石神井公園ふるさと文化館ニュース Vol.42

令和3(2021)年11月1日発行

編集・発行 練馬区立石神井公園ふるさと文化館(公益財団法人練馬区文化振興協会)

ホームページ <https://www.neribun.or.jp/furusato.html>

石神井公園ふるさと文化館 住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町5-12-16

石神井公園ふるさと文化館分室 住所 〒177-0045 東京都練馬区石神井台1-33-44

TEL:03-3996-4060 FAX:03-3996-4061

